



## 地球大学アドバンス 第39回

[TOKYO SHIFT シリーズ 総括編]

“ジャパンショック”から“ジャパンシフト”へ  
～100年の計で東京と日本の未来を構想する  
2011.2.7mon

人類文明史1万年を総括する名著「銃・病原菌・鉄」(ピューリッツァー賞受賞)の著者J. ダイヤモンド氏は、その続編「文明崩壊」のなかで、環境破壊や資源枯渇といったリスクを見事に克服し、文明崩壊の危機から立ち直った稀有の成功例として17世紀の日本を取り上げています。

戦国の世が終わり、農業生産も倍増した1600年代、人口爆発にともなう薪炭需要の急増で日本の森はどこも禿げ山となったが、そこから日本人は奇跡的な森の再生とエコライフへの転換を見事に成し遂げた。日本が現在、国土の7割を森に覆われた「緑の国」となり得ているのは決して当たり前ではなく、むしろ当時の危機状況に対して江戸期の人々がクリエイティブに応答した結果であると。

思えば、戦国の世を終わらせた徳川家康の江戸遷都にせよ、世界史上奇跡の無血革命・明治維新にせよ、日本人はほぼ100年毎に社会と文明の大胆な「リセット」(自己解体と再編)を行い、時代の要請のなかで新たな日本をリデザインし続けて、今日まで来たのです。そして同じ大胆さが、いま私たちに求められているのではないのでしょうか？

「高速道路無料化」「郵政資金の地方への活用」「年金運用改革」などの政策をはじめ、民主党政権のブレンとして知られる山崎氏は、日本の国債暴落の危機(ジャパンショック)に警鐘を鳴らすとともに、そこから脱出する起死回生の道として「太陽経済」の推進と、それを包括的に実践するモデル都市構想を提唱されています。もとより食糧・エネルギー・水管理などすべての面で大きな「脆弱性」を抱えた東京と日本が、100年前の都市デザイン、国家デザインのままで行けるわけではありません。

"TOKYOSHIFT"をテーマに展開してきた今年の地球大学アドバンス、シリーズ総括編は、山崎氏とともにこうした日本と東京の「リセット」ビジョンについて縦横に展開します。

[topics]

- “ジャパンショック”の構造分析とその脱出口
- 「太陽経済」を軸とした新たなジャパンビジョン～日本の地球貢献の新たな回路
- “経済中心”から“人間中心”の成長戦略へ
- 中国大連のエコシティ構想を担う山崎氏が、東京と日本の未来への処方箋として提示する「環東京湾構想」とは？
- 田中角栄「日本列島改造論」の円長にある現在の国土政策を超えるビジョン

## 開催概要

日 時:2011年2月7日(月) 18:30~20:30

ゲスト:山崎 養世 氏

(成長戦略総合研究所 理事長、総務省顧問)

企画・司会:竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会 場:新丸ビル10階「エコツェリア」

地図:<http://ecozeria.jp/access.htm>

定 員:50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法:事前登録が必要です

事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費:エコツェリア会員企業に所属の方:無料

\*名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方:有料2,000円

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/20:30 閉会

■お問合せ先■ 大丸有環境共生型まちづくり推進協会 事務局(新丸ビル10階) TEL:03-6266-9400(代) FAX:03-6266-9401 ウェブサイト <http://ecozeria.jp/>

主催・運営:大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)

\*丸の内地球環境倶楽部は、大手町・丸の内・有楽町地区において環境・CSR活動の推進や技術開発等に携わる実務者のコミュニティ作りを目的とした緩やかな会員組織です。

協賛:株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、戸田建設株式会社

企画・運営:Earth Literacy Program